
BLUMU satein

緒里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLUME sat ein

【Nコード】

N6492K

【作者名】

緒里

【あらすじ】

僕が、梟の鳴き声に誘われて外に出たら、彼女はいた。

真っ黒のマントに身を包んで。そして、僕に言ったんだ。

「赤い月は、戦いのコイン」と・・・

何のことか、さっぱり分からなかった。・・・まだ。

でも、後に彼女と僕は、「BLUME sat ein」と呼ばれる

よじになる。

「赤い月夜の勇者」

アゼンターになる(前書き)

頭の中のイメージをとにかく繋げてみました。
いします。

感想、指摘、お願

アゼンターになる

「おはよう」

「オッス！」

「宿題したー？」

色々な雑音の楽園。

中学校

その中に僕はいる。雑音の一因である、僕。椅子を倒し、声を張り上げる。それは、大切な僕の日常だ。

「まー君。」

ああ、今日もいた。沢口由衣、中2、、、、簡単に言つと、「才色兼備」だろう。

「んん。はよ。由衣ちゃん、かわいいねえー」

「もぉー。またあゝそついう事、言つちやダメだよ」

「ああ・・・いいじゃんよぉゝ」

我ながら、いちやいちゃしすぎだと思う。けど、しょうがないんだ。これが、「僕」だから・・・
そつやつて、朝を過ごし、昼を過ごす。友達と馬鹿やつて、由衣ちゃんとべたべたして。

でも、学校じゃ馬鹿で、軽く、人気者の僕も本当は、すごく冷めたヤツ・・・なんだ。でも、でも、

本当は、「石化音」のメンバー 「クーゼット」なんだよな・・・
そして、今日も。

「つっしや。一丁行くか！」

黒いマントを身に纏い、「THE DARKNESS」へ飛ぶ。

説明

「石化音」は、とある廃ビルの3階に本部を設けている。メンバーは、僕を入れて多分、7人。

リーダーの「ユウウ」 大2

情報収集の「まを」 高3

計画を立てる「法」 高3

実戦部隊の「ナオ」、「いお」、「吉拾」この三人は高2

そして、「僕」こと「ヨシ」。

このほかにも、幽霊部員的存在の奴らがいるらしいが、事実、分からない。

そして、もう一つ分からないことと言えば、僕が存在。なぜ僕には仕事が無いのか・・・分からない。

けれども、「ユウウ」によれば、もうすぐ訓練を始めるといふ。まあいいんだけどね。

この「石化音」のメンバーは昔からの仲・・・という訳ではなく、招待された人の集まりだといふ。僕らは、パソコンのメールてはないようだがによって無差別に集められた奴らだ。

もつと、細かく説明してみると、僕らの世界には「THE DARE KNESS」と呼ばれる、たくさんのグループがある。「THE DARE KNESS」は、簡単に説明すると「何でも屋」、「金で動

く連中」である。

そして、「THE DARKNESS」の頂点に登りつめた者の、
「BLUMUSATEIN」と言われる。

「赤い月夜の勇者」という意味で、たくさんの奴らに崇拜さ
れ、尊敬され・・・一生贅沢に暮らせるとか言われている。

分か

つたかな？

僕らの説明だっただけだな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6492k/>

BLUMU satein

2010年10月21日08時38分発行